

第144回 2級日商簿記検定 解答速報

各問の解説は、後半のページに載せました。

第1問(20点)

	仕 訳			
	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
1	ソフトウェア	30,000,000	ソフトウェア仮勘定	30,000,000
	未払金	10,000,000	普通預金	10,000,000
2	当座預金	24,000,000	土地	24,000,000
	営業外受取手形	16,000,000	土地売却益	16,000,000
3	クレジット売掛金	312,000	売上	300,000
	支払手数料	12,000	仮受消費税	24,000
4	発送費	3,600,000	未払金	3,600,000
	仕入	1,200,000	買掛金	1,200,000
5	子会社株式	29,000,000	その他有価証券	4,000,000
			普通預金	25,000,000

仕訳1組につき4点。合計20点。

第2問(20点)

問1

総勘定元帳 (抜すい)

5

売掛金

日付			摘要	借方	日付			摘要	貸方
28	4	1	前期繰越	1,700,000	28	4	16	諸口	3,300,000
			売上	3,300,000			21	売上	975,000
			売上	5,850,000			25	電子記録債権	800,000
							30	次月繰越	5,775,000
				10,850,000					10,850,000

8

商品

日付			摘要	借方	日付			摘要	貸方
28	4	1	前期繰越	2,500,000	28	4	6	買掛金	270,000
		5	諸口	1,450,000			10	売上原価	1,660,000
		6	買掛金	320,000			20	売上原価	2,950,000
		14	諸口	1,945,000			30	商品評価損	75,000
							〃	次月繰越	1,260,000
				6,215,000					6,215,000

問2

① 当月の売上高 ￥ 8,168,000

② 当月の売上原価 ￥ 4,685,000

③ 当月末の売上割戻引当金勘定の残高 ￥ 11,000

□一つにつき2点。合計20点。

第3問 (20点)

精 算 表
平成28年3月31日

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	65,350		50				65,400	
当座預金	450,000			300,000			150,000	
受取手形	280,000						280,000	
売掛金	390,000			23,000			367,000	
売買目的有価証券	147,550			4,050			143,500	
繰越商品	69,800		88,150	69,800			86,645	
				1,505				
建物	7,500,000		1,500,000				9,000,000	
備品	670,000						670,000	
建設仮勘定	1,200,000			1,200,000				
のれん	196,000			28,000			168,000	
満期保有目的債券	495,200		1,200				496,400	
支払手形		263,000						263,000
買掛金		320,000						320,000
退職給付引当金		680,000		175,000				855,000
貸倒引当金		28,000	23,000	7,940				12,940
建物減価償却累計額		1,575,000		228,750				1,803,750
備品減価償却累計額		326,800		68,640				395,440
資本金		6,500,000						6,500,000
利益準備金		540,000						540,000
繰越利益剰余金		383,600						383,600
売上		6,770,000				6,770,000		
有価証券利息		7,500		1,200		8,700		
仕入	5,450,000		69,800	88,150	5,431,650			
給料	360,000				360,000			
保険料	120,000			30,000	90,000			
	17,393,900	17,393,900						
(雑)益				50		50		
貸倒引当金(繰入)			7,940		7,940			
(有価証券)評価損			4,050		4,050			
(棚卸減耗)損			1,505		1,505			
減価償却費			297,390		297,390			
(のれん)償却			28,000		28,000			
(退職給付)費用			175,000		175,000			
(前払)保険料			30,000				30,000	
当期純(利益)					383,215			383,215
			2,226,085	2,226,085	6,778,750	6,778,750	11,456,945	11,456,945

- *横1列につき、赤の部分がすべて正解につき2点。赤の部分以外は、採点の対象とはならない。
- *繰越商品の金額は、貸借対照表の中では、使用した2行の範囲であればどの行に記入してもよい。

第4問(20点)

材		料	
月初有高	(53,000)	直接材料費	(515,000)
当月仕入高	(589,000)	間接材料費	(51,000)
		月末有高	(76,000)
	(642,000)		(642,000)

製造間接費			
間接材料費	(51,000)	予定配賦額	(824,000)
間接労務費	388,000	配賦差異	(40,000)
間接経費	425,000		
	(864,000)		(864,000)

仕掛品			
月初有高	233,000	当月完成高	(1,459,000)
直接材料費	(515,000)	月末有高	(214,000)
直接労務費	101,000		
製造間接費	(824,000)		
	(1,673,000)		(1,673,000)

□一つにつき2点。

第5問(20点)

月末仕掛品のA原料費	=	1,120,000	円
月末仕掛品のA原料費	=	280,000	円
月末仕掛品の加工費	=	840,000	円
完成品総合原価	=	17,620,000	円
完成品単位原価	=	4,405	円

一つにつき4点。

《 解 説 》

(ヒント)

第1問

1. ソフトウェアの契約総額¥30,000,000の全額を未払計上したとき、下記の仕訳を行っている。

ソフトウェア仮勘定 30,000,000 / 未払金 30,000,000

次に、2回分払ったとき

未払金 20,000,000 / 現金預金 20,000,000

以上の仕訳が済んでいることが前提

よって、本日の仕訳は、

ソフトウェア仮勘定からソフトウェアに振り替える。

また未払金を普通預金から支払うから、次のようになります。

ソフトウェア 30,000,000 / ソフトウェア仮勘定 30,000,000

未払金 10,000,000 / 普通預金 10,000,000

(ヒント)

第2問 (仕訳します)

4月1日 仕訳なし (繰越は仕訳しない元帳に記入)

5日 商品 1,450,000 / 前払金 600,000
買掛金 850,000

(5日の商品の計算)

甲 ¥3,200×200個=¥640,000
乙 ¥2,700×300個=¥810,000 } ¥1,450,000

6日 商品 320,000 / 買掛金 320,000 (甲)
買掛金 270,000 / 商品 270,000 (乙)

10日 売上原価 1,660,000 / 商品 1,660,000
売掛金 3,300,000 / 売上 3,300,000

(10日の売上原価の計算)

先入先出法だから

550個 $\begin{cases} \nearrow 500 \text{ 個} \times \text{¥}3,000 = \text{¥}1,500,000 \\ \searrow 50 \text{ 個} \times \text{¥}3,200 = \text{¥}1,600,000 \end{cases}$ } ¥1,660,000

11日 仕訳なし (出荷基準だから)

14日 商品 1,945,000 / 買掛金 1,045,000
 受取手形 900,000

(計算)

甲商品 ¥3,300×450個=¥1,485,000 }
 乙商品 ¥2,300×200個=¥460,000 } ¥1,945,000

16日 現金 3,267,000 / 売掛金 3,300,000
 売掛割引 33,000

20日 売上原価 2,950,000 / 商品 2,950,000
 売掛金 5,850,000 / 売上 5,850,000
 発送費 8,000 / 現金 8,000

(20日の売上原価の計算)

(甲商品)

期首残 500個 (@¥3,000)
 5日仕入 200個 (@¥3,200)
 6日仕入 100個 (@¥3,200)
 10日売上 550個
 14日仕入 450個 (@¥3,300)

だから、20日の売り上げた甲商品の原価は

400個 → 250個 (@¥3,200) = ¥800,000 }
 → 150個 (@¥3,300) = ¥495,000 } ¥1,295,000

(乙商品)

期首残 400個 (@¥2,500)
 5日仕入 300個 (@¥2,700)
 6日返品 100個
 14日仕入 200個 (@¥2,300)

20日の売り上げた乙商品の原価は

650個 → 400個 (@¥2,500) = ¥1,000,000 }
 → 200個 (@¥2,700) = ¥540,000 } ¥1,540,000
 → 50個 (@¥2,300) = ¥115,000 } ¥1,655,000

合計¥2,950,000

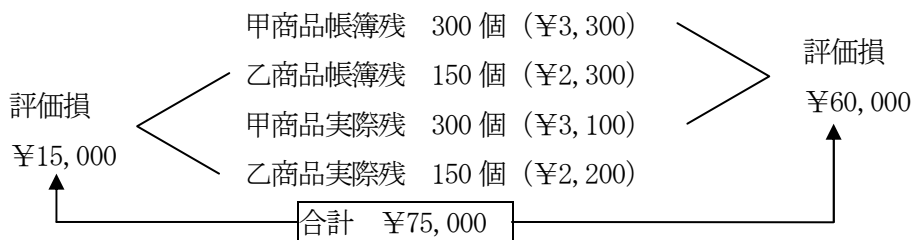
よって (甲商品) + (乙商品) = ¥1,295,000 + ¥1,655,000 = ¥2,950,000

(20日の売上高の計算)

(甲) ¥6,500×400個=¥2,600,000
(乙) ¥5,000×650個=¥3,250,000 } ¥5,850,000

21日	売上	975,000	／	売掛金	975,000
25日	電子記録債権	800,000	／	売掛金	800,000
28日	売上割戻引当金	13,000	／	現金	13,000
	売上割戻	7,000			
30日	商品評価損	75,000	／	商品	75,000

(30日の評価損の計算)



問2

売上高 = 10日 + 20日 - 21日 - 28日
= ¥3,300,000 + ¥5,850,000 - ¥975,000 - ¥7,000
= ¥8,168,000

売上原価 = 10日 + 20日 + 30日
= ¥1,660,000 + ¥2,950,000 + ¥75,000
= ¥4,685,000

売上割戻引当金 = ¥24,000 - 28日 ¥13,000
= ¥11,000

第3問

仕訳を書きます。

1. ① 現金 50 / 雑益 50

② 仕訳なし

③ 貸倒引当金 23,000 / 売掛金 23,000

④ 建物 1,500,000 / 建設仮勘定 1,200,000
当座預金 300,000

2. (計算) 受取手形 280,000 + 売掛金 390,000 - 23,000 = 647,000

$647,000 \times 0.02 = 12,940$ - 引当金 (28,000 - 23,000) = 7,940

(仕訳)

貸倒引当金繰入 7,940 / 貸倒引当金 7,940

3. (計算) 帳簿価額と時価の差額

A社株式 (+) 3,700

B者株式 (-) 9,700

C社社債 (+) 1,950

(-) 4,050

(仕訳)

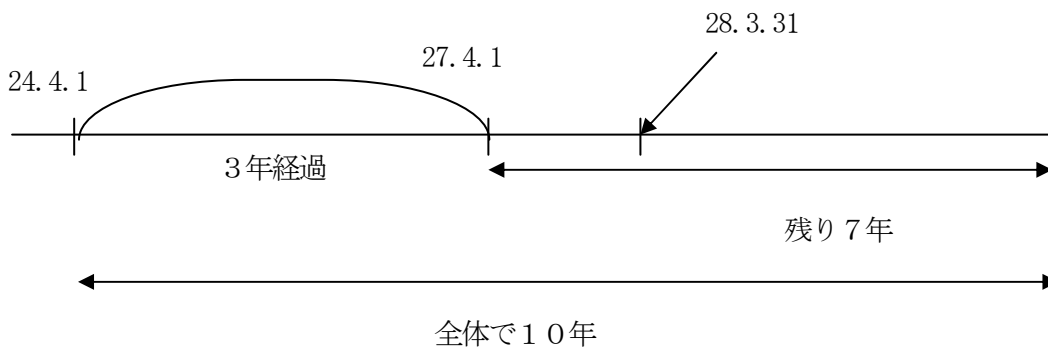
有価証券評価損 4,050 / 売買目的有価証券 4,050

4. 商品の数量が7個減少しています。棚卸減耗損を計算します。¥215 × 7個 = ¥1,505

正味売却価額が6円値上がりしていますが、無視します。

すなわち商品評価益は計上しません。

5. (計算)



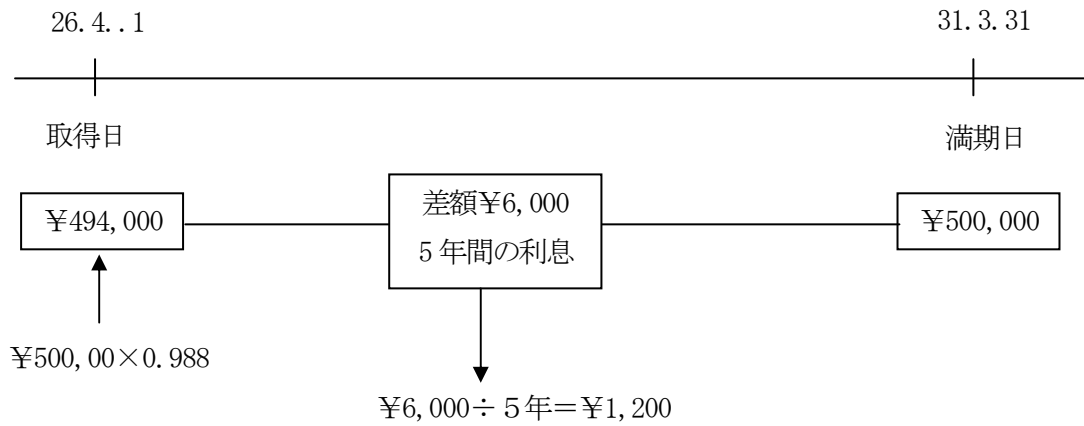
残り7年で、のれん¥196,000を償却する。

$196,000 \div 7 \text{年} = 28,000$

(仕訳)

のれん償却 28,000 / のれん 28,000

6. (計 算)



(仕 訳)

満期保有目的債権 1,200 / 満期保有目的債権 1,200

7. (仕 訳)

退職給付費用 175,000 / 退職給付引当金 175,000

8. 残高試算表の保険料 ¥120,000 は平成27年4月1日から平成29年7月31日までの16ヶ月分である。
前払いとなるのは4ヵ月分。

$$¥120,000 \div 16 \text{ヶ月} \times 4 \text{ヵ月} = ¥30,000$$

(仕 訳)

前払保険料 30,000 / 支払保険料 30,000

第4問

仕訳を書きます。材料仕入などの相手科目が不明なので、一応買掛金としておきます。

11月4日	材 料	265,000	／買掛金	265,000
11月9日	仕掛品	220,000	／材 料	220,000
11月12日	工場消耗品	32,000	／買掛金	32,000
11月13日	材 料	275,000	／買掛金	275,000
11月19日	仕掛品	295,000	／材 料	295,000
11月22日	工場消耗品	17,000	／買掛金	17,000

実際原料X消費高合計=515,000

工場消耗品 (間接材料)	
期首 9,000	逆算で 消費高 51,000
仕入高 32,000 17,000	
期末 7,000	

棚卸計算法とは、消費高の計算にあたって、期末残高は実際残高を計上するということです。
期末残高は実際残高の7,000です。

材 料			
月初有高	(53,000)	直接材料費	(515,000)
当月仕入高	(589,000)	間接材料費	(51,000)
		月末有高	(76,000)
	(642,000)		(642,000)

製 造 間 接 費			
間接材料費	(51,000)	予定配賦額	(824,000)
間接労務費	388,000	配賦差異	(40,000)
間接経費	425,000		
	(864,000)		(864,000)

仕 掛 品			
月初有高	233,000	当月完成高	(1,459,000)
直接材料費	(515,000)	月末有高	(214,000)
直接労務費	101,000		
製造間接費	(824,000)		
	(1,673,000)		(1,673,000)

予定配賦だから

$$\text{配賦率} = \frac{9,600,000}{6,000,000} = 1.6$$

$$\text{予定配賦率} \times \text{実際消費高} = 1.6 \times 515,000 = 824,000$$

第5問

単純総合原価計算です。A原料費、B原料費、加工費に分けて計算します。

平均法で計算します。ボックス図を描いて計算式を導きます。

A原料費		B原料費		加工費	
560,000	完成品数量 4,000kg	130,000	完成品数量 4,000kg	400,000	完成品数量 4,000kg
当月消費高 6,440,000	仕損品 200kg	当月消費高 3,090,000	仕損品 200kg	9,260,000	仕損品 200kg
	期末仕掛品 800kg		期末仕掛品 800kg×0.5		期末仕掛品 800kg×0.5

*問題文に、正常仕損費はすべて完成品に負担させるとあるので、正常仕損費は期末仕掛品に負担させません。

すなわち、期末仕掛品を割高にしないようにするため、仕損数量を割り算にに入れて計算します。

$$\text{月末仕掛品のA原料費} = (560,000 + 6,440,000) \times \frac{800}{4,000 + 200 + 800} = 1,120,000$$

$$\text{月末仕掛品のB原料費} = (130,000 + 3,090,000) \times \frac{800 \times 0.5}{4,000 + 200 + 800 \times 0.5} = 280,000$$

$$\text{月末仕掛品の加工費} = (400,000 + 9,260,000) \times \frac{800 \times 0.5}{4,000 + 200 + 800 \times 0.5} = 840,000$$

$$\begin{aligned} \text{完成品総合原価} &= \text{期首仕掛品} + \text{当期総製造費用} - \text{期末仕掛品} - \text{仕損品の処分数} 20,000 \\ &= 1,090,000 + 18,790,000 - (1,120,000 + 280,000 + 840,000) - 20,000 \\ &= 17,620,000 \end{aligned}$$

$$\text{完成品単価} = 17,620,000 \div 4,000 = 4,405$$

以上です。